

2024年11月2日作成 Ver.1

《情報公開文書》

長崎大学病院の母児同室している児の授乳状況に関連する要因について

研究の概要

【背景】

2002年、第55回世界保健総会で、母乳だけで育てる推奨期間は6か月で、その後も栄養を補いながら生後2年以上母乳育児を続けること、と母乳は母児にとって有益であり、WHO/ユニセフによる共同宣言「母乳育児成功のための10カ条」の中ではスタッフからの母乳育児に関する知識や技術の提供が必要であることが述べられています。

当院では、児の出生直後より母親と児が同室する母児同室を基本としています。しかし、当院では母児ともに合併症のある患者が多く、一時的に母児分離となるのが現状です。日々関わるスタッフが授乳に対する希望を母親に確認しながら指導を行っており、母乳育児に関する指導の方法は統一されていません。そのような中で、ケアの介入方法について検討していましたが、実際の当院の直接授乳の頻度や量、ミルク補足量に関するデータはなく、授乳状況についての現状が把握できていません。

【目的】

長崎大学病院の母児同室している児の授乳状況に関連する要因を明らかにすることで、当院の現状を知り、母乳育児に必要な知識・技術は何か明らかにすることを目的とします。

【意義】

この研究により、今後のスタッフへの授乳に関する助産ケアの見直しとなる基礎資料を得て、ケアの検討につなげることができると考えます。

【方法】

診療録を用いた周産期データの後ろ向き研究です。

対象となる患者さん

2023/4/1～2024/3/31までに当院で出産し母児同室をした褥婦の方とその子供です。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- 出産時の母親の年齢
- 出産時の母親の合併症
- 分娩週数、分娩歴、分娩方法、分娩時出血量、分娩所要時間
- 児の出生体重、児の日齢 1～退院時の体重
- 児の出生当日～退院までの授乳状況（直接授乳の回数、直接授乳での哺乳量、ミルクの哺乳の回数、ミルクの哺乳量）
- 搾乳の有無、退院前日の一回搾乳量
- 1 カ月健診時の児の栄養方法、1 カ月健診時の体重
- 入院中・1 カ月健診時の母親の乳房トラブルの有無

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2024 年 11 月 21 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2026 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 6 階西病棟 氏名：松本 夏実 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7388
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 6西病棟 松本 夏実

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7388 FAX 095（819）7388

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）